

鳥類保護委員会議事録

日時：2019年9月13日（金） 13時15分～15時15分

場所：帝京科学大学 千住キャンパス（東京都足立区）

出席者：佐藤重穂（委員長）、北村 亘（副委員長）、大迫義人、金井裕、呉地正行、須川 恒、高橋満彦、武石全慈、平田和彦

オブザーバー：浦達也

1. これまでの決議や要望書の提出後の経緯

1)上関（2008年度大会決議）

中国電力は2019年7月26日、山口県から上関原発建設に係る公有水面埋立免許について、2023年1月までの伸長許可を得たが、合わせて山口県から「上関原子力発電所本体の着工時期が見通せない状況にあることから、発電所本体の着工時期の見通しがつくまでは埋立工事を施行しないこと」という要請があった。

2)御蔵島のノネコ対策

外来ネコ問題研究会によるシンポジウムが継続して開催され、その中で離島における海鳥とネコによる脅威について指摘されている。要望書の提案者である岡奈理子会員が、ノネコ問題についての書籍を翻訳・出版して、普及啓発を図っている（ピーター・P・マラ/クリス・サンテラ著、岡奈理子ら訳、ネコ・かわいい殺し屋－生態系への影響を科学する、築地書館、2019年7月）。

3)道北の風力発電

北海道北部風力送電は2018年10月、北海道北部地域における風力発電の導入拡大を目指し77.8キロメートルの送電網を整備すると発表し、今後も風力発電施設の新規建設・増設などが見込まれる。

4)北上高地の風力発電

環境省は2017年12月に「岩手銀河(1)及び(2)ウインドファーム建設事業計画段階環境配慮書」に対する環境大臣意見として、本事業の取り止めも含めた事業計画の抜本的な見直しを行うこと等を求めた。

5)大規模太陽光発電

鳥類保護委員会は2019年6月に太陽光発電施設についての法制度の整備を求める意見書を環境省に提出するとともに、環境影響評価課の担当者と意見を交換した。本大会では、大規模太陽光発電が鳥類に与える影響についての自由集会を開催して、問題点を

整理する。

2. 秋田県由利本荘市の洋上風力発電事業について

由利本荘市沖で大規模な洋上風力発電が計画されており、2019年3月に由利本荘市野鳥を愛する会、日本野鳥の会秋田支部、日本野鳥の会の3者の連名で、事業者である(株)レノバに対して要望書が提出された。秋田県の環境影響評価の手続きがとられていて、間もなく準備書が提出される見通しとなっている。

本委員会で検討した結果、準備書のパブコメに対して委員会から意見を出すとともに、それとは別に秋田県及び経済産業省に対して意見書を提出するよう検討することとなった。

3. コウノトリ等の放鳥事業と餌としての外来ドジョウについて

日本魚類学会の中島淳氏から、同学会自然保護委員会でコウノトリやトキの放鳥事業の際に餌として撒かれるドジョウが遺伝的攪乱を生じさせる恐れがあるという問題提起があり、日本鳥学会事務局から、この件について鳥類保護委員会で検討してほしいという依頼があった。

検討した結果、放鳥事業の際、およびそれによって分散した個体が定着した場所のいずれにおいても、自然状態で十分な採餌ができる環境を整備することが重要であり、餌の放流は望ましくないということを周知させるよう、鳥類保護委員会のウェブサイト公表すること、および、同様の内容が兵庫県立コウノトリの郷公園のパンフレットに掲載されているので、周知することとなった。

4. 鳥類保護委員会の体制について

次期委員長に北村亘氏、副委員長に武石全慈氏と平田和彦氏を選出した。任期は2020年1月から2年間。

5. 各委員からの情報提供

1) 沖縄県辺野古の埋め立て問題について、生態学会からの呼び掛けで複数の学会が合同で要望書を出すことになり、鳥学会も賛同したが、生態学会が学会の内部事情で取り下げた。その後、2019年4月に生態学会が単独で意見書を提出している(高橋)。

2) 環境省のレッドリストについて、第5次の改定から毎年、随時見直すようになっている。トキは2019年1月に野生絶滅からCRになった(金井)。